

中央アルプス縦走～遠かった越百（こすも）山～

【報告者】A屋

【日時】2019年9月14～16日

【天候】晴

【参加者】A屋

《コースタイム》

14日 8:30 千畳敷～木曾駒ヶ岳～宝剣岳～10:30 島田娘～濁沢大峰～檜尾岳～檜尾岳避難小屋

15日 5:00 檜尾岳～木曾殿山荘～木曾義仲の力水～10:00 空木岳～13:00 南駒ヶ岳～14:00 摺鉢窪避難小屋

16日 4:40 摺鉢窪避難小屋～6:40 空木岳～駒嶺ヒュッテ～池山尾根～12:00 池山尾根登山口

《 報 告 》

北アルプスや南アルプスの縦走経験から、中央アルプスも一気に歩いてみようという想定で計画したが、根本から打ちのめされた登山であった。とりわけロングでも難ルートでも無い一般登山道で、従来の経験から余裕も織り込んでいたはずなのに、ここまで打ちのめされたことは一生の記憶として心に残るだろう。

9月の3連休は好天予報とあり、駒ヶ根駅からロープウェイの千畳敷カールの待ち時間によって行程への影響を心配していた。しかし、バスは空いており、ロープウェイも9分間隔の連休増発運行により、非常にスムーズに千畳敷カールに降り立つことができた。千畳敷カールの第一印象は、想像よりもずっと小さいな、だった。上部の浄土乗越もあっけなく登り終え、続く木曾駒ヶ岳のピーク（中岳と本峰）も小ピークのように連なり、登山者の行列に紛れながら淡々とピークを踏み、踵をかえして縦走路へと急いだ。



図 1 千畳敷カール

岩峰、宝剣岳には鎖やホールドが十分に設置されており、見た目の厳しさとは裏腹に安心して登れる岩場であった。冬期の登攀時のロープの出し方もイメージできた。宝剣岳の反対側である島田娘に降り立ったところで出発から2時間。順調な縦走開始であったが、雲ひとつ無い晴天は、気温9℃の予報に反して、夏真っ盛りな暑さであった。濁沢大峰、檜尾岳といったアップダウンを繰り返すにつれ、徐々に水が心細くなるとともに疲労感に包まれる。檜尾避難小屋は眺望の良い丘の上に建てられた風情あふれる避難小屋が初日の幕営地。小屋内は登山者で賑わいすでに満室。小屋の外になんとか一張分のテントスペースを確保した。水場は小屋から5分以上下った樹林帯の中で取れる。水量は少ないが鍋が置い

であるので汲みやすい。幽霊がでる小屋として有名であるが、その気配も無い賑わいぶり。頭痛と疲労感からテントで仮眠した。その後、雲海の対岸に浮かぶ南アルプスの島々を眺めながら外で夕食を取り、日暮れと共に就寝した。



図 2 雲海に浮かぶ檜尾岳避難小屋

翌朝は暑さへの対策として朝5時に出発し、涼しい時間に距離を稼ぐこととする。割と近くに見える空木岳はコースタイムで5時間となっている。実際歩くとアップダウンがありなかなか近づかない。登るために降ると言った感じ。TJARのゼッケンをつけた選手たちが走ってきたので道を譲る。ここで走られる体力は次元が違う。木曾殿山荘はかなり下ったコルに位置する。この先、越百山まで水場はない。小屋から往復約18分の水場まで下って2日分の水を補給して空木岳の急登に挑む。急峻な岩場を1時間ほど登り返して、ようやく空木岳の山頂に立つ。ここまでちょうどコースタイムの5時間を要した。この時点でかなり暑さに参っており歩く気力を失い日陰で長めの休息を取る。

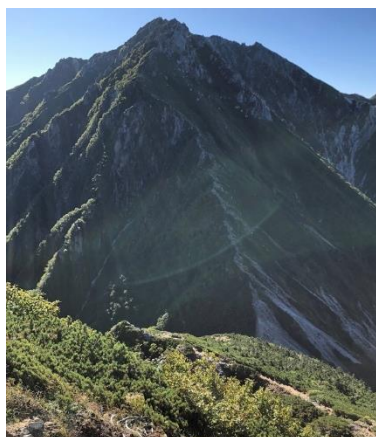


図 3 空木岳へ登り返し



図 4 池山尾根を見下ろす



図 5 南駒ヶ岳で折返し

空木岳から下山することも考えたが下山道の池山尾根も結構な時間（5時間）を要するので、しばらく考え、計画どおり先に進むことにした。1時間ほど進むとその日の幕営地である摺鉢窪避難小屋が見えた。この小屋はどの登山口からも遠く水場も無い。時間はまだ12時ごろ、もう3時間歩けば営業小屋の越百小屋があり補給が可能になる。疲労しているがゆえに、何も無い無人小屋に留まることに対してと迷いと焦りが生じた。結局、縦走を続けたが、南駒ヶ岳山頂まで進むと、いよいよ具合が悪くなったため摺鉢窪避難小屋へ引き返すこととした。無人の避難小屋ではひたすら横になって体調の回復に努めた。誰もい

ない小屋だったが夕方一人の登山者が小屋へ来た。翌朝、歩ける程度に体調を回復したが越百山方面は諦め、空木岳から池山尾根で下山とした。早朝の空木岳は清々しく緑と青空が映える美しい山容だった。池山尾根は少地獄・大地獄と難所のイメージがあったが、夏季においてはさほど困難な場所は無く一般的な登山道の範疇だと言える。冬期は尾根通しのルートがあるらしく、積雪の空木岳にいずれ登ってみたい。



図 6 摺鉢窪避難小屋（ポリタンクに水の備蓄あり） 図 7 駒峰ヒュッテのテラスら空木岳

空木岳の山頂直下にある有料の避難小屋、駒峰ヒュッテのスタッフをされている方に下山中に少しお話を伺う機会があった。駒峰ヒュッテは地元山岳会のメンバーが交代で休日に小屋に入り、ボランティアで登山者の対応をしている。小屋の売上でなんとか運営を続けているそうだ。休日は登り5時間もかかる山小屋へ通い、必死に運営を続けているスタッフの並々ならない労力からは、空木岳を守るという強い意思を感じずにはいない。

今回の登山を振り返ると、1日の行程長さも標高差も著しく大きいということはなく、荷物重量も10kg程度に抑え軽量化も十分に図っていた。それでいながら疲弊した理由を考察すると、①初日にロープウェー等で2,600m以上まで一気に標高を稼いで高所に慣れる前の登山だったこと、②暑さと水分（特に電解質の準備が不足）の備えがない、③体力不足による疲労と、それによる食欲不振、が組み合わさって起きたパフォーマンスの低下だったと思われる。涼しい季節の登山と想定しており、食料計画についてももう少し検討しておくべきであった。苦労の中で過ごした今回の登山、無人の小屋で過ごした思い出は生涯忘れないであろう。南駒ヶ岳～越百山は次回のお楽しみ。



図 8 少地獄の鎖場

図 9 立派な池山小屋

図 10 池山小屋前の水場